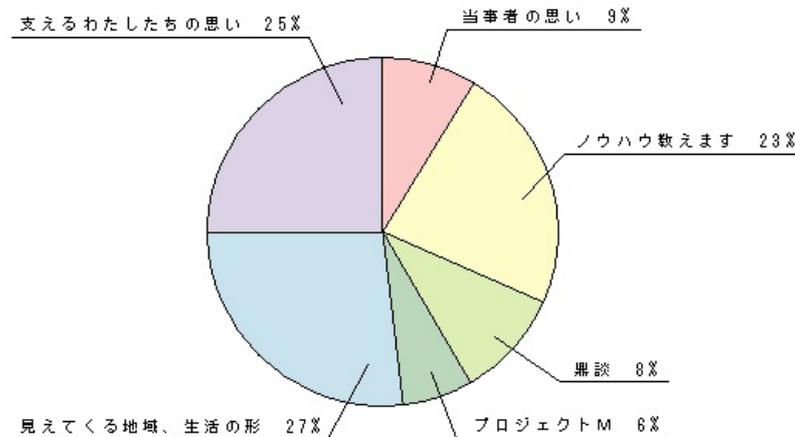


障害が重くても、みんなまちで生きていこう！全国セミナー2003 アンケート結果



■ 貴方の印象に残ったセッションを教えてください。



■ セッションについてのコメント

- 下郡山さん、阿部さんのお話、もつとわくわくお聞きしたかったです。
多くの方たちのお話を聞きたいのは山々ですが、少ない方々の深いお話も良かったのではないかと思います。「見えてくる地域、生活の形」の人数も多いです。皆さんが語りたいことが多いので(私たちも聞きたい)、2部制にするとか、もっともつと聞きたいと思われました。構成に問題があるのでは、せつかくの方々に集まっていただいたのですからもつとない。
A: お答えいたします。この機会に国、県、市、現場の方にバランス良くお話を聞けないのかと苦心した構成でした。その結果時間が足りなくなりました。申し訳ありませんでした。
- 目からうろこが落ちる気持ちでした。
- 「ノウハウ教えます」では、それぞれの仕組み、挑戦を聞くことができたが、一人15分の時間では少し物足りなく、浅くしか聞けなかったように感じた。「プロジェクトM」の本間さんの話はとてもわかりやすくとても良かった。
- 「当事者の思い」居宅サービスを使って懸命にはりつめたような思いの中で生きている村上さんに心揺り動かされました。
しかし、親の立場では、そのような生活の中で今後のことを考えた時どうなのか・・・という話が出てきましたが、やはり当事者の自宅地域で生きたいという切なる思いと、親としての立場の思いとその違いをひしひしと感じました。
障害者を持つ親として、村上さんの発言にすごい重さを感じました。
- 「気ぐるい」のキーワードをもらっただけでも良かった。
- 福祉は施設で、というのが当然だと思っていた。その考え方が障害を持った人々を施設に閉じ込め、社会から排除してきたのだと勉強した。
家族や地域社会に開かれた福祉が出来たら良いと思う。
- ある方は、一般的な説明だけでビジョンを示せないのは情けない。もっと前向きで、知恵のある政策を望みたい。
熊本の実践が支援を受ける人、支援する人という一方通行の関わりでなく、自ら関わっていく活動を様々模索しているのが参考になった。行政より、実践者が元気で良かった。
田島さんの苦勞が良く分かった。
- 今回のセミナーの中では「見えてくる地域、生活の形」が現場に戻った際に、すぐ取り組めるような実践例が盛り込まれていて、いい話が聞けたと思う。
- 重い障害の概念もこれまでのセミナーでは抽象的でバラバラで、どう考えるかもわかりづらいところもありましたが、今セミナーは、重症心身障害者など、最も重い障害を持つ人までカバーされた内容で、大変素晴らしいものでした。大阪でもまだまだです。どこから手をつけるかさつくと地図を書いてみたくなりました。
- 自分の考えを伝えることのできる人や、相談できる人とつながりがある人は、手を貸そうという立場の人間とのコミュニケーションが容易であると思います。でも多様な障害を持つ人々の中にはコミュニケーションの難しい人々もいます。その人々にはどのように接したら良いのでしょうか？普通に生活していても隣近所の人たちからいろいろ言われるのが地域です。まして、障害の重い人々に対して暖かい目というのは難しい。そして時間が必要だと思います。障害者だけでなく、高齢者を含めて、さらに地域に住む人々も一緒に変わっていかねばならないのではないのでしょうか。日本人はまだまだお上主義だと思います。従って、国の大号令が有効だと思いますので、もっと福祉に関しては「こうしない」という指導が必要だと感じます。
- ハード面、ソフト面におけるパワーの使い方について再度考えさせられました。
- 利用者(障害者)の生の声が聴けて良かったです。
- 目新しいものはなく、少しがっかり。2日目の体感セッション2、昼食時間に食い込んでだめだよ！腹が立つ。せつかくのYUUさんの素晴らしい演奏も時間短縮して、彼に失礼だ。演奏中は窓を閉めろ。騒音があるのに。まったく心配りが足りない。
A: 配慮に欠け、まことに申し訳ありませんでした。
- 「鼎談」生々しい話を聞かせてもらいました。私たち現場の人間はなかなか行政の方と関わる事ができないし、「今何を改革しているのか」などと、伝わるのが遅いです。田島さんの「利用者の状態を知るのは現場の人間、だから現場から意見を持つていく」という言葉忘れません。実際、上に伝わるまでに何年もかかるかもしれませんが。

○「鼎談」の高松鶴吉さんのお話は、以前から聞きたいと思っていたので、楽しみにしていました。「気ぐるい」という言葉がびつたりの人の話であり、そういう人たちが集まって社会は変わってゆくと思いました。もっと高松さんの話が聞きたいと思いました。やっと、日本でもユニットケア、グループホームが定着してきたのかな（言葉だけでなく、実際になってほしいのですが）。しかし、地方で、それを行うのはなかなか難しい。日本人の意識を変えていかなくてはとも思っています。

○「ノウハウ教えます」重い障害を持っている人たちの生活の実態やケアの状況が良くわかった。「見えてくる地域、生活の形」現在の施設の機能を最大限に活かしながら、地域生活を支える仕組みについて展望が見えた。

○「見えてくる地域、生活の形」大規模施設がなくなり、各地域の中に多機能施設としてどんどん出てきて欲しい。宮城県では地域福祉と言われていますが、どのようにして地域で暮らすのか、まだ見えていないのが現状です。

○普段、なかなか行政の方の考えをお聞きする機会がないので、とにかく新鮮でした。でも行政からではなく、現場からだ聞き、私たちは何を怖がっていたのかと思いました。どんどん働きかけていこうと思います。

○重い障害の人たちへの地域生活について、今の問題、これからのやるべきことについて詳しく、わかりやすい説明でした。